

令和4年（2022年）6月23日

左心耳閉鎖システム(Watchman) 実施認定施設

ご担当科責任者 各位

実務ご担当者 各位

日本循環器学会

左心耳治療ワーキンググループ長

山本 一博

J-LAAO への登録のご協力、ありがとうございます。

実施施設より、施術中にデバイスが脱落した有害事象を登録いただきました。

本件を振り返り、全施設にご留意いただいた方が良いと思われる事項がありましたので、ご連絡いたします。

本施術を安全に施行するために、以下の点にご留意をお願いいたします。

デバイス留置に難渋する症例では、施術が長引くうちに、コアワイヤとデバイスの接続が緩んでしまい、意図せぬデバイス脱落に結びつく可能性があります。

デバイス留置に難渋する症例においては、この点に留意しながらデバイス操作を行ってください。

特に展開一回収を繰り返すうちに、このようなトラブルに結びつく可能性は高くなることが想定されます。

留置困難症例における撤退の決断も重要なポイントと思われます。

本治療を有効かつ安全な治療法とすべく、実施施設におかれましては、上記の点を考慮して施術を実施していただきますよう、よろしくお願いいたします。

引き続きよろしくお願いいたします。

以上